

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和3年度第1回高松市環境審議会
開 催 日 時	令和4年2月9日（水） 13時30分～14時40分
開 催 場 所	高松市役所本庁舎11階114会議室及びWeb会議方式
議 題	議 題 (1) 会長及び副会長の選任について (2) 高松市環境基本計画の令和2年度取組状況について (3) その他 ・「ゼロカーボンシティ宣言」について ・「高松市食品ロス削減推進計画」の策定について
公開の区分	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	(1)の会長、副会長の選任は、互選審議の中で委員の個人情報にも触れる可能性があり、非公開とした。
出 席 委 員	14人
	角道 弘文（会長）、平 篤志（副会長） 生嶋 暹、石川 恵美子、今岡 芳子、植中 公幸、久保田 恭子、篠原 渉、清水 まり子、谷川 進、筒井 由果、野崎 千恵、野島 誠、元木 泰史
欠 席 委 員	1人
傍 聴 者	1人（定員 5人）
担 当 課 及 び 連 絡 先	環境総務課（Tel.839-2388）

### 審議経過及び審議結果

#### 議 題

##### 1 会長及び副会長の選任について

条例に基づき、委員の互選により、会長に角道弘文委員、副会長に平篤志委員が選任された。

##### 2 高松市環境基本計画の令和2年度取組状況について

事務局から、令和2年度の取組状況について内容を報告した後、意見交換が行われた。

（委 員）

取組状況に関する資料、「指標No.62 環境保全活動の推進」にある廃食用油収集については、所管する部署において、事業廃止の方向で進んでいるようだが、SDGsの観点からも重要な取組であるので、継続をお願いし

たい。

(事務局)

廃食油収集の事業継続については、事業実施団体の関係委員から、強い要望があったことを所管課へ伝える。

(委員)

「指標 No. 31 水環境の保全」に関する指標で評価が悪化しているものがあるが、対応を検討されたい。また、指標自体が適切でないものもあるかもしれないが、そういった場合、指標の見直しを行うべきではないか。「指標 No. 21 地球温暖化対策の推進」の指標についても適切なものか検討し、進捗管理等を行っていくことが重要と考える。

(事務局)

指標の評価が悪化しているものについては、各所管課で精査しながら、対処できるものは積極的に取組を進めていく。現行の指標が適当なものであるか、特に地球温暖化対策の指標について御指摘をいただいたが、環境基本計画の下にある個別計画として「地球温暖化対策実行計画」があり、現在、見直しを行う中で、指標と目標値の再設定を進めている。今後も御意見、御指導を賜りたい。

(会長)

指標の評価は、要因分析が重要である。資料の理由欄に書かれている代表的な理由だけではなく、様々な要因が複合的に影響していることから、それらを丁寧に分析する必要がある。

(事務局)

要因分析については、代表的な理由以外のものがあることは承知している。複数の要因を考慮しながら指標の評価を適切に行っていく。

また、環境に対する評価については、国の基準でも「低ければ低いほど良いというものではない」という解釈も一部出始めているものもあり、今後も研究を進めていく。

(副会長)

取組状況は令和2年度の指標評価となり、コロナ禍の影響がどこまであったかを明確にすることは難しいと思うが、ポストコロナの社会環境、経済環境を見据えた施策を検討していく上では重要である。

(会長)

指標の中で、啓蒙活動や環境学習等、参加者数が評価項目となっているものがあるので、この指摘は重要だ。また、「指標No.12 廃棄物の適正処理

の確保」のうち、一般廃棄物の年間埋立処分量についてはE評価が続いているが、「評価を踏まえた取組状況」をみると、前年度と取組内容が変わりがない印象を受ける。

(事務局)

市として政策的に取組むべき手立てがある評価項目や指標は、皆様の御意見をいただきながら見直しを検討したい。

### 3 その他

#### (1) 「ゼロカーボンシティ宣言」について

事務局から「ゼロカーボンシティ宣言」の概要と今後の取組予定等について説明した後、意見交換が行われた。

(委員)

地球温暖化対策実行計画の中で2030年と2050年の目標があったが、これは2050年にゼロカーボンとするために、2030年までに「しなければならないこと」を定量的な観点で目標設定したのか。

(事務局)

2050年にカーボンニュートラルを目指すには、国や県とも一丸となって、取り組むべき困難な課題だ。また、現在の技術水準では見通せない課題等もあるので、2030年を一つの目安として取組を進め、どういう結果になるかは、途中での見直しも検討しながら、考えていく必要がある。

(委員)

カーボンニュートラルを意識するのであれば、たとえば、再生可能エネルギーの活用も必要だ。高松市では省エネを心がけるよう周知啓発を行うことは出来るが、計画を作るにあたっては県や他の自治体との連携や役割分担も意識しなければならない。

(事務局)

地球温暖化対策実行計画については、現在、見直し作業を進めており、素案については、ほぼ、まとまってきている状況である。近くパブリックコメントを実施するので、詳細等については、そちらで御意見をいただきたい。

(会長)

国、県等との連携は重要で、協働することで相乗効果が生まれることもある。多様な主体との連携を深め、実施してほしい。

(委員)

香川県も「地球温暖化対策推進計画」を昨年10月に策定し、県民として

取り組むべき項目が示されている。高松市の地球温暖化対策実行計画についてもそれを包括した内容になると思うが、地域においても予算、事業計画の編成時期となっているので、出来ることがあれば示してほしい。

## (2) 「高松市食品ロス削減推進計画」について

事務局から「高松市食品ロス削減推進計画」について説明した後、意見交換が行われた。

(委員)

私の所属する団体でも食品ロスに関するアンケート調査を行ったが、回答者は、普段の生活の中で食品ロス削減を意識することが出来る。市もアンケート調査を継続して実施していただきたい。

(会長)

計画中の食品ロスの削減目標値は23%とされており、この数値設定にあたって、国、県との整合性をとったとの説明があったが、より高い目標を設定したらどうか。

(事務局)

目標を高く掲げるのは重要だが、数値目標の設定については、行政としての説明責任があり、まずは国、県の数値目標に合わせた。ただし、この目標値が達成できればそれで良いというものではなく、達成できれば、より高い目標をもって食品ロス削減を進めていくべきと考えている。また、今後、経年でデータが出てくれば、目標値の修正なども必要に応じて検討していく。

(会長)

計画中で、「手前どり」等、環境省が推進していることと同じ内容が列挙されているが、高松市独自の取組はあるか。

(事務局)

「高松らしさ」として特出ししたことは、先だって、定例記者会見で市長からも直接言及があったが、「フードドライブ活動」がある。フードドライブ活動は今年度、既に積極的に取り組んでおり、プロバスケットボールチーム・ファイブアローズの試合にあわせてフードドライブ活動を企画した。今年1月の実施は、新型コロナウイルス感染症対策のため見送られたが、また折をみて実施したいと考えている。また、香川大学でも学生有志のグループが今年度、これまでに4回のフードドライブ活動を商店街、金融機関と協力して実施しており、今後の継続開催予定もある。このような活動に対し、行政としても積極的に取組み、あるいは支援し、「高松らしさ」をアピールしてまいりたい。

(会 長)

飲食店やスーパー、コンビニ等の小売店なども、事業者のフードロス削減への影響は大きいので、こちらも積極的に取り組んでいただきたい。